

Baidu次世代AIモデル「ERNIE 5.0」とオープンソース版「ERNIE-4.5-VL-28B-A3B-Thinking」詳細レポート

概要 (Summary)

中国のテクノロジー大手 **Baidu (百度)** は2025年11月、2つの対照的なAIモデルを発表した。11月13日の年次イベント「Baidu World 2025」で旗艦モデル「**ERNIE 5.0**」を公開し、その直前の11月11日にはオープンソースのマルチモーダルモデル「**ERNIE-4.5-VL-28B-A3B-Thinking**」をApache 2.0ライセンスで一般公開した¹²。以下に主要ポイントをまとめる。

- **ERNIE 5.0 (プロプライエタリ)** : Baiduが新たに発表した**ネイティブ・オムニモーダル**基盤モデル。テキスト・画像・音声・動画を統合的に扱い、**GPT-5**や**Google Gemini 2.5 Pro**と肩を並べる最先端性能を持つと社内評価されている³。大規模(約**2.4兆パラメータ**のモデル)で高度な推論・対話能力を備え、企業向けにクラウドAPI(Baidu AI Cloud「Qianfan」)経由で提供される商用モデルである⁴⁵。
- **ERNIE-4.5-VL-28B-A3B-Thinking (オープンソース)** : 上記発表の数日前に公開された**マルチモーダル推論モデル**。総**280億パラメータ**規模だが、Mixture-of-Experts (MoE)技術により**実際の推論で活性化されるのは30億パラメータのみ**とする効率設計が特徴⁶。**Apache 2.0ライセンス**で公開され商用利用も可能で、単一の80GB GPU上で動作する手軽さを実現し、中規模組織でも導入しやすい。
- **二刀流戦略**: Baiduは最高性能を求める**大企業向けにプレミアムな独自モデル(ERNIE 5.0)**を提供する一方で、**開発者コミュニティやコスト重視企業向けに高性能なオープンソースモデル(ERNIE-4.5-VL)**を投入している。前者は**高機能・高価格帯**で専門的ユースケースに応え、後者は**柔軟なカスタマイズ性・低コスト**で幅広い採用を狙う⁷⁸。この両輪戦略により、Baiduは国内外のAIエコシステムで存在感を高めることを目指している。

以下、技術面とビジネス面の詳細分析、および両モデルの比較表を示す。

ERNIE 5.0とERNIE-4.5-VL-28B-A3B-Thinkingの比較表

モデル	タイプ (ライセンス)	パラメータ規模	対応モダリティ	提供形態	主な特徴・性能
ERNIE 5.0	プロプライエタリ (商用) ¹	約2.4兆 ⁹ ¹⁰	テキスト・画像・音声・動画 (オムニモーダル統合) ⁴	Baiduクラウド API (Qianfan) 経由、ERNIE Botで提供 ¹¹	最先端性能 (GPT-5/Gemini級) ¹² 。OCR/文書理解・チャート解析など企業向けタスクで卓越 ¹³ 。高精度の指示追従・創造的文章生成も可能 ¹⁴
ERNIE-4.5-VL-28B-A3B-Thinking	オープンソース (Apache 2.0) ¹⁵	総280億 (推論時30億活) ⁶	テキスト・画像 (動画の時間認識含む) ¹⁶	Hugging Faceで公開。モデル重み・コードを入手可能 ¹⁷	MoEによる高効率推論 (単一80GB GPU動作) ¹⁷ 。DocVQA/チャート解析でGemini 2.5 Pro超えの性能を主張 ² 。「画像で考える」動的ズーム分析機能 ¹⁵

表: ERNIE 5.0とERNIE-4.5-VL-28B-A3B-Thinkingの主要比較ポイント

技術レポート (Technical Details)

ERNIE 5.0 – 次世代オムニモーダル基盤モデルの特徴

「ERNIE 5.0」はBaiduが開発した最新世代の大規模基盤AIモデルであり、その最大の特徴は「ネイティブ・オムニモーダル」(統合型マルチモーダル)アーキテクチャにある ⁴。従来のモデルがテキストや画像など一部のデータ形式に特化して訓練されていたのに対し、ERNIE 5.0では訓練の初期段階からテキスト・画像・音声・動画といった多様なモダリティを統合し、単一の自己回帰型モデルで扱う設計を採用している ¹⁸。その結果、異なるフォーマットの情報を組み合わせた高度な理解・生成が可能となり、ユーザーからの複雑なマルチモーダル入力にも一貫した応答を行える。

モデル規模と能力向上: ERNIE 5.0のモデルサイズは最大約2.4兆パラメータに達し、前世代から飛躍的にスケールアップしている ⁹ ¹⁰。これにより複雑な推論、論理的思考、長期記憶、説得力ある説明生成などの能力が大幅に向上した ⁹ ¹⁴。同モデルは指示追従 (インストラクションフォロー) 型の対話にも優れ、創造的な文章生成やプログラミングコードの理解・生成など、多様なNLPタスクで高い性能を示す。またエージェント的な計画立案や外部ツール利用能力も強化されており、単なる文章生成AIの域を超えた「知的主体」として振る舞うことを目指している ¹²。

マルチモーダル性能: Baiduは社内で実施した40以上のベンチマークテストにおいて、ERNIE 5.0の言語理解およびマルチモーダル推論能力がOpenAIのGPT-5やGoogleのGemini 2.5 Proと同等か一部で上回ることを示したと発表した ¹²。特に、OCR (光学文字認識) や文書質問応答 (DocVQA)、チャート解析など企業の業務自動化に直結する視覚・文書系タスクで卓越した性能を発揮し、画像生成や音声質疑応答など他のモー

ダル分野でも高水準の能力を有する³¹³。例えば表や文書の理解・要約ではGPT-5-HighやGemini 2.5 Proを凌駕するスコアを達成し、画像からの情報抽出やチャート読み取りでは**構造化データの推論力**で競合をリードしたとされる¹⁹²⁰。また**画像生成能力**についても内部評価GenEvalでGoogleのVeo3に匹敵する品質を示し²¹、**音声認識・音声質問応答**（MM-AUやTUT2017ベンチマーク）でも競争力のある結果を残している²²。これらはテキストと言語以外のモーダリティでもERNIE 5.0が汎用モデルとして通用しうることを示唆する。

もっとも、これらの性能評価はあくまで**Baidu社内の発表に基づく**ものであり、**独立した第三者による検証はまだ十分に**なされていない²³²⁴。専門家からも「**他モデルを凌駕**」といった主張には慎重な検証が必要との指摘があり²⁵、**真の実力を評価するには多言語環境や多様な実世界シナリオでの公開ベンチマークテスト**が今後求められる²⁶²⁷。Baidu自身もこの点は認識しており、ERNIE 5.0のベータ版（Previewモデル）を外部開発者に公開してフィードバック収集を進めているとされています。

提供形態と実行環境: ERNIE 5.0はBaidu内では検索・クラウドサービスと統合されており、一般ユーザー向けにはチャットボット「ERNIE Bot」を通じて一部機能が提供開始されました¹¹。企業向けにはBaidu AI CloudのMaaS型プラットフォーム「**Qianfan（千帆）**」を介した**APIサービス**として提供されており、開発者はクラウド上でモデル推論を呼び出す形で利用できます¹¹。モデルの巨大さゆえに**ローカル環境での実行は現実的でなく**、Baiduが自社のクラウド基盤（および同社製AIチップ）上でホスティングする形です。実際、BaiduはERNIE 5.0発表と同時に**自社開発のAI半導体「Kunlun（昆仑）チップ」新世代**を披露しており、**大規模推論向けのKunlunxin M100（2026年初提供）**や**超大規模モデル訓練向けのKunlunxin M300（2027年提供予定）**でERNIEシリーズを効率良く動かす計画です²⁸²⁹。これら自社ハードとの組み合わせにより、モデルのパフォーマンス最適化とコスト低減を図っています。

実運用上の工夫: ERNIE 5.0には用途特化のバリエーションも用意されています。例えば「**ERNIE 5.0 Preview 1022**」はテキスト処理性能を高めた派生モデルで、コード生成や長文分析などテキスト主体タスクでより高い精度を発揮するよう調整されています³⁰³¹。一方、標準のERNIE 5.0 Previewモデルは全モーダリティにバランスよく対応する設定になっており、ユーザーは用途に応じ使い分けことができます。モデルは**長大なコンテキスト（十数万トークン級）**にも対応するとされ、大量のドキュメントを一度に処理する企業ニーズにも応える設計です³²。ただし極端に長いマニュアル類や動画全編の解析では未だ制約もあり、入力長や推論時間とのトレードオフが残ります³²。

既知の課題: リリース直後の検証で、ERNIE 5.0には**一部の応答挙動に不具合**も指摘されています。ある開発者はSVG画像生成の対話で、モデルが**不必要にツール（プラグイン）起動を試みるバグ**を報告しており³³、Baiduは「特定の構文で発生する既知の問題であり現在修正中」と迅速に対応を表明しました³⁴。このように**最新モデルゆえの安定性課題**も残るものの、Baiduは開発者からのフィードバック収集と改善に注力しており、モデルの信頼性向上に努めています³⁴。また、対話AIとしての応答の一貫性や規制順守（中国のAI規制への適合など）も引き続き注視すべき点です³⁵。専門家は、ERNIE 5.0は中国語環境・データに特に最適化されているとみられ³⁵、英語を含む多言語でOpenAIやGoogleのモデルと真正面から競うにはデータ分布や規制環境の違いにも留意が必要だと指摘しています。

ERNIE-4.5-VL-28B-A3B-Thinking – オープンソース多モーダルモデルの特徴

「**ERNIE-4.5-VL-28B-A3B-Thinking**」（以下、ERNIE 4.5 VL）は、Baiduが**2025年11月11日に公開したオープンソースのマルチモーダルAIモデル**である³⁶。ERNIEシリーズの一部として位置付けられ、同年6月に発表されたERNIE 4.5ファミリーから強化・拡張された最新モデルだ。名称の「VL」は**Vision-Language（視覚と言語）**を指し、画像や動画とテキストの統合理解に重点を置いていることを示唆している。

MoEアーキテクチャによる高効率設計: 本モデル最大の技術的特徴は**Mixture-of-Experts（MoE）アーキテクチャ**の採用にある。総パラメータ数は約**280億**に上るが、入力ごとに最適な「**専門家**」ネットワークを選択的に有効化することで、**実際に計算に用いるのは約30億パラメータのみ**に抑えている⁶。この「**必要な専門家**

だけ発火”という仕組みにより、大規模モデル相当の性能を維持しつつ計算コストとメモリ消費を劇的に削減することに成功した⁶。Baiduの技術文書によれば、この効率化により**単一の80GB GPU上でモデルを動作可能**とし、多数の高価なGPUを束ねる必要をなくしたとされる¹⁷。実際、80GBメモリのGPU

(NVIDIA A100など)は市場価格1万~3万ドル程度で企業のオンプレミス環境にも比較的導入しやすく、何十万ドルもかかる数機の高端GPUクラスと比べ**大幅なコスト圧縮と導入ハードルの低減**につながると分析されている³⁷。この点は特に**予算に限りのある企業や研究機関にとって魅力的**であり、ERNIE 4.5 VLの設計思想が「現実的な計算資源で先端AIを扱えるようにする」ことにあるのは明らかだといえる。

性能と「Thinking with Images」機能: ERNIE 4.5 VLは効率的でありながら**視覚と言語の統合推論性能で最先端モデルを凌駕**すると謳われている。Baiduは本モデルが**GoogleのGemini 2.5 Pro**や**OpenAIのGPT-5-High**を、文書理解やチャート解析などの**視覚関連ベンチマークで上回った**と主張している²。具体的には、スキャン文書やPDFの内容を読み取って質問に答える**DocVQA**や、与えられたグラフ画像からデータを読み取り解釈する**ChartQA**といったタスクで既存の巨大モデルを超える精度を示したとされる³⁸。またBaiduの社内評価では、写真中の数式問題を解くような**STEM分野の視覚問題**でも高い正答率を記録し、視覚的な因果関係推論や多段推論にも長けるといいます³⁹。これらは大量かつ多様な高品質視覚・言語データで中間訓練 (mid-training) を行い、視覚情報とテキスト情報を**セマンティックに高度に対齊**させた成果だと技術文書で説明されています^{40 41}。

特筆すべき革新的機能が、Baiduが「**Thinking with Images (画像で考える)**」と呼ぶ**動的画像解析**の能力です⁴²。通常、視覚と言語モデルは与えられた画像を決まった解像度・サイズで処理しますが、本モデルは**人間が画像を見るように自由にズームイン・ズームアウトしながら細部を検査**できるとされています⁴³。これは例えば「まず画像全体を俯瞰して文脈を掴み、次に興味深い部分を拡大して詳細を読む」といった人の視線移動に近い動作をソフトウェア的に再現するものです⁴⁴。このダイナミックな視覚解析により、**高い解像度が要求されるタスク** (例: 複雑な技術図面の読み取りや製造ラインにおける微細な欠陥検出) にも柔軟に対応でき、**広い範囲のコンテキスト把握と局所的なディテール解析を両立**できるとされています⁴⁵。さらに本モデルは「**Visual Grounding (視覚的グラウンディング)**」能力も強化されており、画像中の特定物体を指示に応じて正確に特定・定位する機能を備えています⁴⁶。例えばロボットや自動倉庫でカメラ映像から目的の部品を見つけ出す、といった産業シナリオで有用と考えられます。

他にも、外部ツールとの連携によってモデルの知識を拡張する「**ツール統合**」の仕組みも報告されています。ERNIE 4.5 VLは必要に応じ、訓練データにない情報を得るために**画像検索など外部APIを自動呼び出し**し、その結果を踏まえて回答することができます⁴⁷。これは視覚領域における「**ツール使用**」の能力であり、モデルが単独で閉じた世界の知識に頼るのではなく、リアルタイムな追加情報にアクセスできる点で興味深いアプローチです。**動画理解**にも対応しており、時間の経過に沿ったシーン変化を捉える「**高い時間的認識能力**」を持つとされます¹⁶。例えば監視映像における異常検知や、スポーツ映像のハイライト抽出などで、フレーム間のイベントや状態変化を把握できることを意味します。

以上のように機能豊富なERNIE 4.5 VLですが、こちらも**実際の性能検証は今後の課題**を残します。Baiduの発表に対し、SNS上では「本当にGPT-5やGeminiを超えたのか真偽を見極める必要がある」との声もあり³⁸、第三者によるベンチマーク実施と結果の精査が望まれます²⁷。もっとも、Apache 2.0で公開されたことで**誰もがモデルを入手し自前で評価・改良**できる状態となっているため、コミュニティ主導の検証やチューニングが今後進んでいくでしょう⁴⁸。実際、本モデルの公開は「高性能モデルを自由に使える利点は大きい」と歓迎する開発者の声も上がっており⁴⁹、オープンソースであること自体が性能の信頼性検証を加速させる可能性があります。

公開と互換性: ERNIE 4.5 VLは**Apache 2.0ライセンス**でオープンソース公開されており、商用利用含めて自由に活用・改変することが認められています¹⁵。公開先は主にHugging Faceなどのモデルリポジトリで、モデルの重み、トークナイザ、推論コード、技術ドキュメント (モデルカード) が提供されています¹⁷。開発者はPyTorchやMindSpore上で動作するチェックポイントデータをダウンロードし、自社のタスクに合わせて微調整 (ファインチューニング) したり、推論APIに組み込んだりできます。Baiduによれば、本モデルは

標準的なTransformer系フレームワーク（Hugging Face TransformersやvLLM等）や自社の高速推論ツールキットFastDeployとも高い互換性を持ち、既存のエコシステムに容易に統合できるとしています⁵⁰。これはユーザーが学習済みモデルを扱う上で大きな利点であり、環境依存の特殊実装ではなく汎用的なツールで活用できる点で開発現場に受け入れられやすくなっています。

背景技術と工夫: 技術文書によれば、ERNIE 4.5 VLの学習には**大規模強化学習**や**難易度調整手法**も投入されています⁵¹。具体的には、MoEの安定訓練のため**GSPO**（グレーデッド自己対話最適化）や**IcePop**といった戦略を組み合わせ、さらに訓練データの難易度を動的に調整することでモデルの逐次学習効率を高めたとのこと⁵¹。またコミュニティから要望の強かった**視覚的グラウンディング性能**や**命令追従能力**も強化してリリースされており、実応用で重要となる**正確さ・従順さ**に配慮した改良がなされています⁵²。

ビジネス分析 (Business Analysis)

Baiduの二本柱戦略: プレミアムモデルとオープンモデルの棲み分け

今回のERNIE 5.0（商用）とERNIE 4.5 VL（オープンソース）の同時展開は、Baiduが**AIモデル提供において二本柱の戦略**を取っていることを如実に示している⁷。一つは、**自社クラウド上で提供するプレミアムモデル（クローズドソース）による収益化**、もう一つは**無料公開するオープンソースモデルでエコシステムを拡大する戦略**である。このアプローチにより、Baiduは**ハイエンド市場と開発者コミュニティ双方にリーチ**し、総合的なプレゼンスを高めようとしている⁵³。

まずERNIE 5.0は、高性能を求める大企業や専門用途に対し**付加価値の高いサービス**として位置付けられている。大規模モデルの提供・保守には巨額の計算資源と高度な技術力が必要なため、Baiduはこれを自社クラウドでホスティングし、**API利用料という形でマネタイズ**している。実際、ERNIE 5.0のAPI利用価格は旧モデルに比べ大幅に高く設定されており、入力1,000トークンあたり約\$0.00085、出力1,000トークンあたり約\$0.0034（人民元換算で¥0.006/¥0.024）と公表された⁵⁴。これは前世代のERNIE 4.5 Turboモデルの7~8倍にあたる価格であり⁵⁵、BaiduがERNIE 5.0を「**高機能・高価格帯のフラグシップ商品**」として位置付けていることが伺える⁵⁶。一方で中国市場の競合であるAlibabaの大規模モデル（例: Qwen-3）とは同等レンジの料金に抑えており⁵⁷、国内他社と足並みを揃えつつ**海外のOpenAIやAnthropicよりは廉価**に設定することで価格競争力も意識しています⁵⁸⁵⁹。Baiduはこのプレミアムモデル提供によってエンタープライズ顧客からの収益基盤を強化し、継続的なモデル開発投資の循環を生み出そうとしています。

対照的に、ERNIE 4.5 VLのオープンソース公開は**開発者コミュニティへの開放と標準獲得**を狙ったものです。Apache 2.0ライセンスで制限なく利用できる高性能モデルを提供することで、世界中の研究者・開発者がBaiduのモデルを基盤に**新たなアプリケーションやサービスを構築しやすくなります**。これによりBaiduは直接の収益は得ませんが、自社の技術を事実上の「**標準プラットフォーム**」として広める効果が期待できます。オープンソースコミュニティで支持され改良が進めば、Baiduはその成果を逆に商用モデルへフィードバックしたり、関連ツールやクラウド利用誘導で間接的な利益を得ることも可能です。特に、モデルがHugging Face上で公開されることで、**業界標準のモデル群（Transformersエコシステム）にBaiduの名前が刻まれる**意義は大きいと言えます。事実、本モデル公開は「中国発の高性能オープンソースAIが世界の技術覇権に挑む構図を示した」と評価されており⁶⁰、Baiduにとって技術的ブランディングと影響力拡大というメリットがあります。

このような**クローズドとオープンの二刀流**はリソースの集中投下と分散型イノベーションの双方を取り込む試みです⁶¹。オープンソースは「**技術の民主化**」を促し、幅広い開発者の創意工夫による予測不能なイノベーションを引き出す土壌となります⁶¹。一方、プロプライエタリ戦略は**資本と人材を集中的に投入**して一貫したビジョンの下で完成度を追求できる強みがあります⁶¹。Baiduは両面を押さえることで、急速に進化するAI産業で柔軟かつ持続的な競争力を維持しようとしているのです⁶²。

世界AI市場でのポジショニングと競合他社動向

Baiduの今回の動きは、中国のみならず**グローバルなAI市場での存在感向上**を狙ったものと分析されます。ERNIE 5.0は同社初の本格的な多モーダル大モデルとして、OpenAI・Google陣営の最先端モデルに肩を並べる水準に達したと主張されており¹²、「中国発のモデルが世界のトップレベルに迫った」と国内外で注目されています¹²。これはBaiduにとって技術力を誇示する意味合いが強く、同時に中国政府の掲げるAI自給自足戦略（海外技術依存からの脱却）にも合致する流れです。実際、**中国政府は生成AIの開発とオープンソース化を奨励**しており、BaiduやAlibaba、Tencent、Huaweiといった主要企業が相次いで大規模モデルを公開・開発しています⁶³。Baidu自身、当初はクローズド主義を取っていましたが、2025年に入り方針転換してERNIEシリーズのオープン化に踏み切りました⁶⁴。これは2025年1月に中国スタートアップのDeepSeek社がR1モデルで**安価にGPT-4並みの性能**を実現し業界を驚かせたこと（「DeepSeekショック」）が契機とされ⁶⁵、以降Baiduも6月にERNIE 4.5ファミリーを公開すると宣言するなど、市場環境の変化に対応しています⁶⁶。

国際的にも、Baiduのオープン戦略は他社に影響を与えています。例えばOpenAIは従来クローズド一辺倒でしたが、2025年8月に方針を転換し約120億パラメータのオープンモデルを約5年ぶりにリリースしました⁶⁷。CEOのSam Altman氏が「クローズドのみの方針は誤りだった可能性がある」と述べたように⁶⁷、Baiduを含む中国勢の動きが米国企業にもオープン化を促す圧力となっています。BaiduのERNIE 4.5 VL公開は、「高性能モデルを企業がクローズドで囲い込む」従来路線に一石を投げ、**大規模モデルをいかに開放しつつビジネスにするか**という新たな競争軸を生み出したといえるでしょう⁴⁸。

加えてBaiduはモデル単体ではなく**周辺ソリューションも併せた総合提案**を打ち出しています。Baidu World 2025ではERNIE 5.0と同時に、AIエージェント「**GenFlow 3.0**」（汎用エージェントで2,000万ユーザ達成）や自己進化したエージェント「**Famou**」の商用化、ノーコードAI開発ツール「**MeDo**」（Miaodaの国際版）の公開、AI統合ワークスペース「**Oreate**」のグローバル展開など、**多彩なAIアプリケーション群のアップデート**が発表されました⁶⁸⁶⁹。これらはERNIEモデル群をエンジンとして動作するサービスであり、Baiduは**モデル+応用製品のエコシステム全体**で市場を開拓しています。特にデジタルヒューマン（仮想キャラクター）技術は既にブラジルで展開され、2025年の中国「独身の日（ダブル11）」ショッピングイベントではライブ配信者の83%がBaiduのデジタルヒューマンを利用し販売額91%増に寄与したとも報告されています⁷⁰。さらに自動運転部門では配車サービスApollo Goが世界最大のロボタクシー網へ成長（22都市・累計1,700万乗車）したことも示され⁷¹、**AIモデルから派生する事業領域の広がり**をアピールしています。

これらの動きから伺えるのは、**Baiduが国内市場のトッププレーヤーから国際市場の主要プレーヤーへと飛躍を図っている**点です。ERNIE 5.0によるプレミアムAIサービス提供と、ERNIE 4.5 VLのオープンソース展開によるグローバル開発者ネットワークへの食い込み——この両面作戦によって、Baiduは「中国版OpenAI」的な立場を超え、**世界のAIインフラストラクチャー提供者**として認知されることを狙っています⁸。他社との提携や海外拠点の拡充も進めており、例えば2023年にはアラブ首長国連邦のG42と提携して大規模モデルを中東地域に展開する計画も発表しています（※参考）。中国国内では政府の生成AIガイドラインに準拠した検閲・安全対策を組み込む必要がある一方、海外展開時には各国の倫理・規制に対応する必要があるなど**ハードルも多い**ですが³⁵⁷²、Baiduは開発体制と戦略を両輪で強化しつつこれに挑んでいる状況です。

まとめ (Conclusion)

Baiduによる**ERNIE 5.0とERNIE 4.5 VLの同時発表**は、急速に進化するAI業界における同社の戦略的エスカレーションを示す出来事である。ERNIE 5.0は**一社提供型の最高峰モデル**として、マルチモーダルAIの新たな可能性を切り拓きつつ企業ニーズに応えるプレミアムサービスとなった。一方、ERNIE 4.5 VLは**コミュニティ主導の開発を可能にする基盤モデル**として公開され、オープンイノベーションの加速装置となっている。Baiduはこの「**クローズド&オープン**」二刀流により、コーポレート顧客と開発者コミュニティの双方を取り込み、AIエコシステム全体でのプレゼンスを強化しようとしている⁵³。

もっとも、その野心的な主張が真に実証されるかは今後の検証次第である。ERNIE 5.0が謳うGPT-5並みの性能やERNIE 4.5 VLの画期的効率が**独立機関の評価でも確認されることが**、グローバル市場で信頼を勝ち取る前提条件となるだろう^{26 27}。またオープンソース化により、コミュニティからのフィードバックや派生プロジェクトがBaiduの想定を超えるスピードで現れる可能性もある。Baidu自身、開発者との対話を重視し迅速なバグ修正対応を行うなど、国際ユーザへのサポート姿勢を見せ始めている³⁴。

総じて、ERNIE 5.0とERNIE 4.5 VLに象徴されるBaiduの二面戦略は、**AIモデルの提供と活用の在り方に新たな潮流**を生み出していると言える。巨大な計算コストを要するブラックボックスのモデルを高価格で提供するだけでなく、その一部を敢えて開放し共有することで、「**競争**」と「**協調**」の**バランスを取るアプローチ**である⁷³。この動きは、生成AIの導入コスト構造を覆し、企業は必ずしも自前開発か一部ベンダーからの購入かという二択に縛られなくなりつつあることを示唆する⁷⁴。Baiduのケースが示すように、今後は**最高性能モデルを武器に収益を上げつつ、オープンモデルで業界全体の底上げを図る**というハイブリッドな戦略が、AI業界における一つの有力モデルになるかもしれない。

最後に、この二刀流戦略の成否は**第三者検証の結果と市場の反応**によって判断されるだろう。もしBaiduの提示した性能指標が客観的にも裏付けられ、オープンソースモデルが広く採用されれば、Baiduは国内のみならず**世界のAIインフラ構築におけるキープレイヤー**としての地位を確立するだろう⁸。その一方で、仮に期待値を下回る結果や品質問題が明らかになれば、厳しい目を向ける開発者・企業の信頼を得るのは容易ではない。いずれにせよ、ERNIE 5.0とERNIE-4.5-VLという両極のモデル展開は、AIモデルビジネスの可能性を拡げる大胆な試みであり、今後のAIエコシステムの行方を占う上で注目すべき一手である。今後のアップデートとエコシステムの発展に注視したい。

参考文献: 本レポートでは公式発表記事や技術ドキュメント、ニュースメディアの報道^{4 6}、専門家の見解²⁵など複数の情報源を参照した。特にVentureBeatやinnovaTopiaの詳細レポート^{12 60}を参照し、技術仕様から市場動向まで包括的に分析を行っている。

1 8 11 19 20 21 22 30 31 33 34 50 53 54 55 56 57 58 59 68 69 70 71 Baidu unveils proprietary ERNIE 5 beating GPT-5 performance on charts, document understanding and more | VentureBeat

<https://venturebeat.com/ai/baidu-unveils-proprietary-ernie-5-beating-gpt-5-performance-on-charts>

2 6 15 17 27 32 36 37 45 60 63 64 65 66 67 72 74 Baidu ERNIE-4.5新モデル公開：280億パラメータでGemini 2.5 Proを上回る性能

<https://innovatopia.jp/ai/ai-news/71466/>

3 4 5 7 9 12 13 23 24 26 61 62 73 「Baidu ERNIE 5.0」登場 | 新時代マルチモーダルAIの最新ベンチマーク

<https://innovatopia.jp/ai/ai-news/71772/>

10 14 29 Baidu advances AI with new Kunlun chips and Ernie 5.0 model - Chinadaily.com.cn

<https://global.chinadaily.com.cn/a/202511/13/WS691571bda310d6866eb29500.html>

16 38 39 40 41 42 43 44 46 47 48 49 51 52 Baidu just dropped an open-source multimodal AI that it claims beats GPT-5 and Gemini | VentureBeat

<https://venturebeat.com/ai/baidu-just-dropped-an-open-source-multimodal-ai-that-it-claims-beats-gpt-5>

18 25 28 35 Baidu launches new generation of Ernie AI | InfoWorld

<https://www.infoworld.com/article/4089778/baidu-launches-new-generation-of-ernie-ai.html>